

### 秋は雑草の防除適期

雑草防除において、秋は重要な季節です。もちろんさほど大きな被害はありませんし、放っておけばいずれ目立たなくなっていくますが、翌春の雑草を抑えたり多年草を叩いたりするにはこの季節において他にありません。今月から数回にわたり主な広葉雑草をピックアップしますので、これを機に復習してみましょう。

#### ヒメクグ (カヤツリグサ科、多年草)



高さ10~20cmの小さな雑草ですが、地下茎で繁殖し増殖力が強く、しかも防除が困難なことから、芝生の難防除雑草の一つとして厄介視されています。もともと乾燥地よりもやや湿った場所あるいは湿地が本来の生育場所なのですが、芝生地は芝保護のために常に灌水されるので、適度な湿り気が与えられて好んで生育するようです。花茎の先端に丸っこいくす玉のような緑色の穂を一個だけつけるのが特徴で、花期は7~9月です。

塊茎が地下1~5cmにあり、そこから茶色の鞘に包まれた地下茎が浅い土の中を横に這い、その節から根と茎を出しますが、節間が短いので株のようになります。茎の基部に軟らかく光沢のある細い線形の葉を少数つけます。茎は断面が三角形で、直立または斜めに立ちます。

なお「クグ」とはカヤツリグサ類の古い呼び名で、小さなクグで「姫クグ」と呼ばれているようです。なお同じカヤツリグサ科のハマスゲも多年草ですが、カヤツリグサは一年草です。



↑ヒメクグ(開花時)

[http://matsuoka.xsrv.jp/floraNishinomiya/hydrophytes/plants/shissei/ha\\_gyou/himekugu/himekugu.html](http://matsuoka.xsrv.jp/floraNishinomiya/hydrophytes/plants/shissei/ha_gyou/himekugu/himekugu.html)

←ヒメクグの成長途中の形 「新・校庭の雑草」より



ヒメムカシヨモギ 「野草・雑草観察図鑑」より

#### ヒメムカシヨモギ (キク科、越年草ときに一年草)

茎が高く伸び秋に花をつける雑草の代表格といえどセイタカアワダチソウ(キク科)ですが、同様の雑草にヒメムカシヨモギがあります。同じく茎が直立、高さは1~1.6m(セイタカよりやや低い)で、白い頭状花を6~9月につけます。ですがこの類いの広葉雑草は短期間に成長しひどく目立つので、管理する緑地では姿を見るにしてもロゼットまでに留め、花までは見たくないものです。

9~10月に発芽してロゼットを形成、根出葉はへら状の長楕円形で暗緑色、粗い鋸歯があります。ロゼットで越冬しますが、春に発芽して短期間に成長開花することもあります。耕作放棄地などに先駆的に生育することが多いようです。

オオアレチノギクとよく似ていて、しかもしばしば混生するので見分けが難しいものの、ヒメムカシヨモギの方が葉の鋸歯がやや深く、深緑色で粗い毛があります(オオアレチノギクは白毛が密生、花は同じ白色)。

明治初期に北アメリカから渡来したので、地域によっては維新戦争を反映してゴイシンソウやサイゴクサなどとも呼ばれています。



オオアレチノギクのロゼット(左)とヒメムカシヨモギのロゼット(右) 「野草・雑草観察図鑑」より

## 製品紹介

## アトラクティブ

## 多くの広葉雑草に長い残効性



- 有効成分：クロリムロンエチル 25.0%
- 毒性：普通物
- 魚毒性：A類
- 原体メーカー：デュボン
- 包装：150g/袋、6袋入り/ケース

- 残効性が長い上適期幅が広く、また効果が温度に左右されません。
- 日本芝の広葉雑草に非常に幅広く効果があります。
- サーベルDFに比べると効果のシャープさは劣ります。
- 春と秋には全面散布、5月中旬～9月中旬はスポット散布（ヒメグサやクローバーなど）がおすすめです。
- イネ科雑草には効果が劣るので、これに有効な処理剤との体系で使用してください。
- 降雨が予想される場合は使用を避けてください。
- 遅効性で、温暖期でも雑草が完全に枯れるまで30～40日程度かかります。誤ってまき直ししないよう注意してください。
- 本剤とアルカリ性の肥料・農薬などの化学物質とは混用しないでください。

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量/10a	希釈水量/10a
日本芝	一年生及び多年生広葉雑草	雑草発生前～生育期	20～40g	200L

## MONTHLY TOPICS

### 生態系サービスとは？

10月に名古屋で開催予定の第10回生物多様性条約締約国会議（COP10、国連地球生きもの会議）を間近に控え、このところ「生物多様性」という言葉をよく耳にします。とはいえ、なぜそれが重要なのか、ふだんの生活ではなかなか意識できません。「生態系サービス」は、2005年に国連のミレニアム生態系評価の報告書で紹介された考え方で、生物多様性と私たちの生活との関係をわかりやすく示す概念として様々なところで取り上げられるようになってきました。

生態系サービスとは“生態系による人類へのサービス”、生態系の多くの資源やプロセスによって人類に提供されている利益のことです。下図のように私たちは生態系から①供給（食品や水などの生産・提供）②調整（気候などの制御・調節）③文化（レクリエーションなどの精神的・文化的利益）といったサービスを享受しているほか、全てに共通して④基盤（炭素循環や光合成による酸素の供給）の上で生活しています。生物多様性はまさにこの生態系サービスの基盤なので、生物多様性を維持する活動はそのまま人間の福利に貢献することを示しています。

生態系サービスと人間の福利の関係



矢印の色：  
社会経済因子による仲介の可能性

- 低
- 中
- 高

矢印の幅：  
生態系サービスと人間の福利との間の関係の強さ

- 弱
- ▭ 中
- ▭ 強

出典：ミレニアム生態系評価報告書

緑地管理は左図のうち文化的サービスに該当しますが、緑に関わる以上、他の機能も意識していく必要があるかもしれません。

来月の会議を前に、メディアでもさらに活発に取り上げられるかと思いますが、その中から今後の業務のヒントをつかみたいところです。

環境省ホームページ、H19版環境白書より <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/zu/h19/html/vk0701020100.html>

取扱い・お問合せは—

緑を育み、未来へつなぐ



株式会社 サカエグリーン

〒930-0171 富山県富山市野々上150番地  
TEL:076-434-0036 FAX:076-434-4968